

みんなで作ろう 札幌の冬のみち

札幌に降る雪はひと冬で6メートル。雪は冬ならではの楽しみを与えてくれる一方、私たちの暮らしにさまざまな課題をもたらします。今回の特集では、市や地域の雪への取り組みを紹介しながら、冬を安心して過ごすための雪との付き合い方について考えていきます。

登場人物
紹介



ゆきだるマン

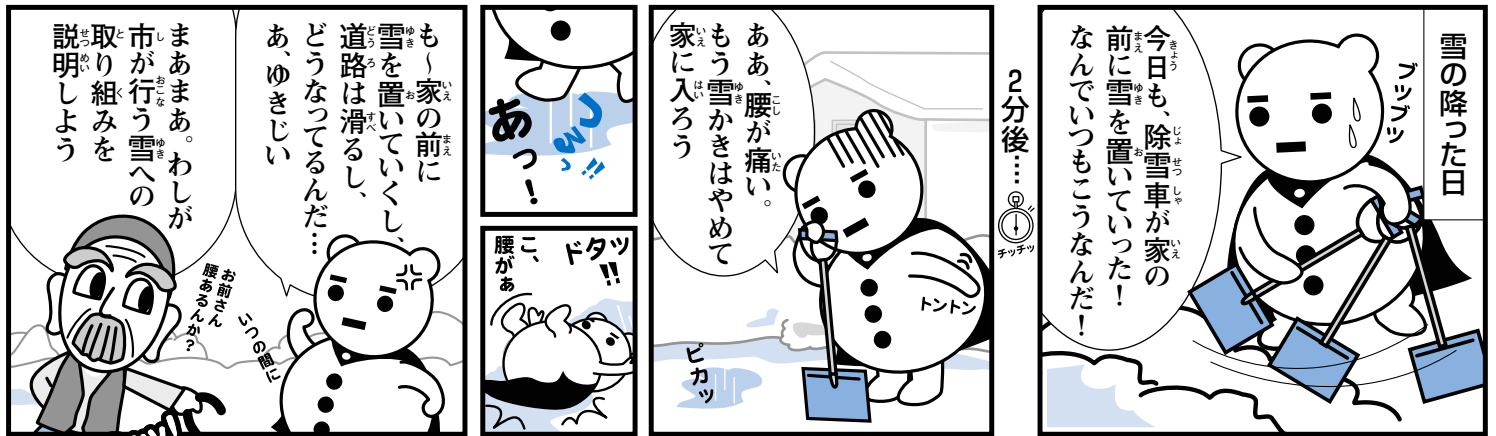
4人家族のパパ。なぜか雪だるまで、正義の味方。体力がない



ゆきじい

ゆきだるマン一家の近所に住むおじいさん。市の雪対策に詳しい

この特集に関するお問い合わせは 雪対策室計画課 ☎211-2682



市の取り組み
その1

「除雪」と「排雪」

短い時間で作業を行わなければならぬから、家の前に雪が残るのか



そうじゃよ。家の前の雪かきはみんなに協力をお願いしているんじや

除雪

雪を左右にかき分ける



10cmの降雪を目安に出動

交通量の少ない夜間に実施。市内全域で除雪を行うと一晩に約5,300kmもの距離になるため、住宅街の道路は左右にかき分ける除雪をしています。

豆知識

一晩の除雪費用は約1億2,000万円

排雪

道路脇の雪を雪たい積場へ運ぶ




積雪が増す1月以降に年1回出動

幹線道路や一部の通学路で実施。除雪よりも多くの機械や人員を必要とし、時間も費用もかかるため、交通に影響のある幹線道路などを中心に排雪しています。

豆知識

ひと冬の雪たい積場への搬入量は札幌ドーム約12杯分

こんなに
いるなんて！



転倒による救急搬送者の数

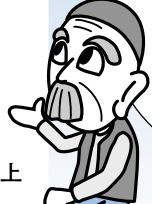
単位：人

年度	人数
H19	606
H20	809
H21	673
H22	787
H23	934

搬送者の傾向


- ・半数以上が12月と1月に集中
- ・搬送者の7割以上が50歳以上

毎年600人を超えておる
救急車で運ばれた人は
危険じゃ。転んでけがをし、
ふむ。確かに冬の道は滑って
危険じゃ。転んでけがをし、



除雪と排雪の仕組み
は分かったけど、
つるつる路面は
何とかできないのかなあ

痛かったなあ



市の取り組み その2 つるつる路面への取り組み



だが、市でも
しっかり対策を
行っているんじゃない

凍結防止剤や砂を散布

毎日、道路のパトロールを行い、除雪後や路面が凍結しそうときに滑り止めを散布。幹線道路には主に凍結防止剤、地下鉄駅周辺などの人通りの多い歩道には砂をまきます。



凍結防止剤や砂をまく散布車。幹線道路では除雪後にまくことが多い

ロードヒーティング

急なカーブや坂道などに設置。路面に埋め込まれた熱線などを、電気やガスを使って暖め、雪を溶かして路面の凍結を防ぎます。



道路の管理方法を見直しています

スタッドレスタイヤや凍結防止剤の性能が向上しているため、下記の対策により安全性を確認できる道路ではロードヒーティングを停止しています。今冬の停止箇所とはじ込みの「冬の暮らしガイド」をご覧ください。

- 停止箇所の安全対策**
- ・周知看板の設置
 - ・道路パトロールの強化
 - ・凍結防止剤の散布を通常の1回から4回に増加
 - ・滑りづらい舗装に改修

砂箱を設置



人通りの多い交差点などには、誰でも自由に利用できる砂箱を設置。また、市役所や区役所などでは、砂入りペットボトルを配布しています。

みんなも
つるつる路面を
見つけたら
砂まきを
しよう！



知っておこう！
自分でできる
つるつる路面対策

- 滑りやすくなる条件は？**
- ・日中の気温が0℃前後のとき
 - ・雨が降ったとき
- 転びやすい場所は？**
- ・横断歩道（特に白線の上）
 - ・ロードヒーティングの切れ目
 - ・バスやタクシーの乗り場
- 滑らない歩き方は？**
- ・焦らず、急がず、余裕を持って歩く
 - ・靴の裏全体を路面に付けて、小さな歩幅でそろそろ歩く




市が対策を
行っているのは幹線道路や
坂道などが中心じゃ。
住宅街や歩道などは、
みんなの協力が
必要なんじゃよ

私にもできる
雪への取り組みは
ないかな？



みんなで力を合わせて 安心な冬のみちをつくろう

地域と創る
冬みち事業に
参加
しませんか

「学校近くの歩道が雪で埋もれて通れない」「高齢者が多い地域なので交差点がつるつるに凍ると特に危険」など雪の課題は地域によってさまざま。そこで、町内会・除雪事業者・市と一緒に話し合い、地域の課題を解決する取り組み「地域と創る冬みち事業」が行われています。詳しくは、お問い合わせください。【詳細】雪対策室事業課☎211-2662

冬みち事業（地域懇談会）の流れ

1 市の除雪の仕組みを知る



除雪や排雪などの仕組み、ほかの地域で行われている取り組みについて説明し、情報を共有します。

2 地域の課題を洗い出す



市の担当者や除雪事業者を交えてグループに分かれ、地域内の冬の課題や協力して取り組むことなどを話し合います。

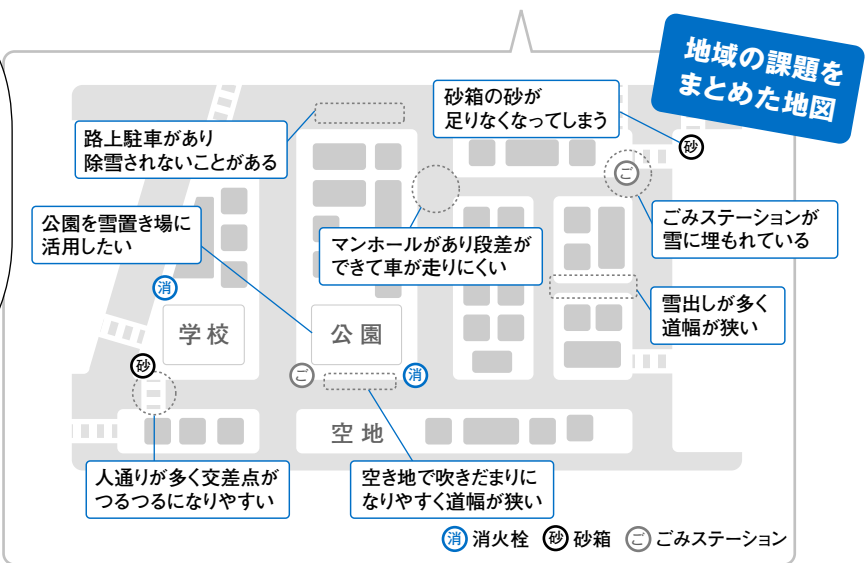
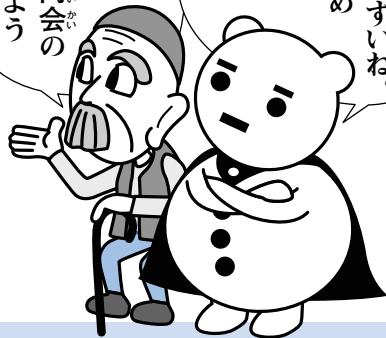
3 課題を共有し解決に向けて取り組む



話し合いの結果、出てきた課題を地図にまとめ、議論の内容を広く町内に発信。その後、課題解決に向けた取り組みを実施します。

それは地域によってさまざまじゃ。ここでは、二つの町内会の取り組みを紹介しよう

地図だと地域の課題が、一目で分かって見やすいね。課題を解決するため地域ではどんな取り組みが行われているの？



冬を安全・快適に過ごすために皆さんにお願いがあります

ごみは収集日の朝に出す

除雪車がごみを巻き込み、道路に散乱してしまいます



道路への雪出しをしない

道幅が狭くなるほか、雪で道路がでこぼこになるため交通事故の原因にもなります



路上駐車をしない

除雪車が通れず道路に雪が残ってしまいます



1人のルール違反でみんなに迷惑が掛かるのじゃ

快適な冬の暮らしをつくるために、みんながルールを守ろう！



北区 鉄西連合町内会

地域の課題

つるつる路面での転倒による負傷者が多い

札幌駅周辺のため交通量が多く、自動車の熱で雪が溶け、寒さで凍ることが繰り返されてつるつる路面が発生。転倒者が多く危険でした。



つるつる路面を解消するため、10月に地域みんなで砂入りペットボトルを作製。この冬、作ったボトルを町内の協力者の家に置き、自由に使うことにしました。ボトル作りをみんなで行うことで地域の交流も深まりましたよ。今年はずるつる路面で転倒する人が少しでも減ることを願っています。

うめか かずや
鉄西連合町内会会長 **梅香 一哉さん**

解決に向けた取り組み

地域の人たちが集まり、滑り止めの砂入りペットボトルを作製



砂入りペットボトルは、じょうごを使って砂をペットボトルに流し込んで作ります。15人が参加し、500本を約1時間かけて作製しました。

中央区 円山第15町内会

地域の課題

救急車が通れないほど道が狭い。砂箱も足りない

雪出しなどで道路が狭くなり、救急車が通れない道路があるほか、地下鉄駅周辺でつるつる路面が多発。砂箱が設置されていましたが、すぐに砂が無くなってしまい足りていませんでした。



課題マップを基に見て回することで、地域の現状をみんなで確認できて問題意識が深まりました。その結果、道路への雪出しなどが減り車が通りやすくなったほか、砂箱の増設にもつながりました。今冬も、みんなで課題を話し合い、解決に向けて取り組んでいきたいと思っています。

そかべ まさし
円山第15町内会会長 **曾我部 正さん**

解決に向けた取り組み

危険箇所などの課題を確認するため町内会・除雪事業者・市が合同でパトロールを実施



パトロールには町内会からは6人が参加。危険箇所をあらためて認識したほか、冬のルールやマナーをみんなで守っていく意識が高まりました。

みんなの知恵と行動で 安心な冬のみちをつくる

市は除雪や排雪、凍結路面对策など雪への取り組みを進めていますが、地域の課題を解決するために何より大きな力となるのは、そこに住む皆さんの知恵と行動です。地域・除雪事業者・市が集まって意見を出し合い、一緒に考えることで雪と上手に付き合っていくためのアイデアが生まれます。力を合わせて、みんなで安心できる冬のみちをつくっていきましょう。

雪への取り組みをもっと知りたいときは？

雪への取り組みが分かる冊子を配布

ゆきだるマン一家が市の雪対策をマンガで紹介する「パパは雪だるま!」を配布しています。

配布場所 市役所8階雪対策室計画課、区役所など



除雪の状況や地域の取り組みなどをホームページに掲載

雪対策室のホームページでは、除雪車の出動状況が分かるほか、地域で行われている冬の取り組みなど雪に関する情報を掲載しています。

札幌市 雪対策 検索

※その他、本誌とじ込みの「冬のくらしガイド」にも雪への取り組みを掲載していますので、ご覧ください